

「いわて老連だより」号外第 25 号 東日本大震災情報  
「がんばろう！岩手」…スローガン

平成 23 年 5 月 1 日

○ 5 月 6 日(金)に全老連及び秋田県老連から職員が被災地老連・宮古市・山田町・大槌町・釜石市の現地調査に入った。

- 1、調査目的：被災地老連の現地被災状況を把握して、初期・中期対応に資する。
- 2、調査日時：平成 23 年 5 月 6 日（金）午前 7 時 30 分～午後 6 時
- 3、調査職員：全国老人クラブ連合会 齊藤秀樹事務局長、岡本まゆみ参事  
秋田県老人クラブ連合会 戸嶋正紀事務局長、田口京子活動推進員
- 4、被災地行程及び調査内容

(1) 盛岡市：県老連・ふれあいランド岩手出発 7 時 30 分～国道 106 号線～宮古市到着 9 時 30 分～宮古駅・商店街・市役所・宮古魚港・藤原・磯鶏・高浜地区の被災状況を見て、宮古市老人クラブ連合会仮事務所である金浜老人福祉センター（避難所）に到着 10 時頃・木村市老連会長、山内副会長（県老連副会長）柳澤事務局長が出迎えた。会議室で被災状況の聴取となった。齊藤全老連事務局長から被災地老連へのお見舞いと義援金、元気袋を届けよう、被災県別サポート班体制」幹事・秋田県老連等で支援していきたい等が挨拶のなかであった。

木村市老連会長が全国から支援をいただいていることに感謝申し上げた。また、山内市老連副会長からは全老連職員及び兵庫県老連女性部等から沢山の救援物品をいただき感謝の挨拶がありました。

柳澤事務局長から市老連の単位クラブの被災状況の説明があった。80 クラブ中宮古支部 24 クラブ、田老支部 5 クラブ、新里・川井支部は被害がなしとの報告でした。

(2) 次に山田町までの金浜・津軽石・豊間根・大沢地区の被災状況を見て、山田町内に入った。壊滅状態で小高いところにある山田役場が被災から逃れていました。11 時 30 分頃到着した。中村丈夫町老連会長、阿部實副会長、五十嵐幸太担当者が出迎えた。玄関ロビーでの調査となった。早速、全老連齊藤事務局長から被災老連へお見舞いを申し上げた。全老連として義援金、元気袋、カレンダーを被災者に届けるなどで支援していきたい。また、要望などは幹事県老連（秋田県）にお願いした。

次に中村会長から、単位クラブ名簿により壊滅・半壊等地区の説明があった。まだ、23 年度の役員会・総会などは開催できない状態である。五十嵐担当者は母と祖父母を津波で亡くしている（励ましの言葉）。その後、要望など意見交換し正午過ぎに終了した。

(3) 国道 45 号線を南下して大槌町に入り、レストラン「きりぎり善兵衛」へ 12 時 30 分頃到着した。既に柳田光悦大槌町老連会長、細川汪副会長、芳賀アイ副会長及び栗沢市老連副会長、横山幸雄事務局長が出迎えた。昼食とともに 2 市町老連から資料及び被災状況の写真等で被害報告があった。

全老連齊藤事務局長から被災市町老連へお見舞いを申し上げた。全老連として義援金、元気袋、カレンダーを被災者に届けるなどで支援していきたい。

要望などは幹事県老連（秋田県）にお願いした。昼食を終えて大槌町浪板観光

ホテルの被害状況をみた。当観光ホテルは震災の11日利用していた秋田県老人クラブ会員が津波に襲われ、裏山に避難して、その後、秋田県までマイクロバスで送ったホテルでした。大槌町内に入り壊滅状態である状況を見ながら小高い城山公園へと向かった。城山公園から被災の全景を見た。大槌町老連の方々と別れ、一路、流失した釜石市老連事務局に向かった。

釜石市内の港周辺は壊滅状態であった。市老連事務局が入居していた海員会館も建物だけが残り中は津波での被害でした。避難所1箇所で「元気袋」などを引き渡して釜石市街の被災状況を見ながら遠野市へと向かった。遠野市までは高速道路でトンネルの長さに調査員は驚いていました。遠野市産直センターで買物などして盛岡市・ふれあいランド岩手に午後6時過ぎ到着した。玄関前で全老連齋藤・岡本及び秋田県老連戸嶋・田口・五嶋（業者）及び兵庫県老連小牧さんと1日の行程を労いお別れした。

(4) 震災から2ヶ月を迎えることから被災地は「ガレキ」の処理が進んでいる状況でした。また、避難場所の方々は疲労が溜まっているが笑顔があり積極的に話しかけてきました。(被災地老連の役員の元気な姿に全老連齋藤事務局長もビックリしていました。)

最後に老人クラブ活動は出来ない現実は良くわかりました。県老連として「重要な課題」として掲げ、長い期間にわたり支援していかなければならないと感じた。



被災地老連へのお見舞あいさつ  
齋藤全老連事務局長（宮古市老連）



被災状況：中村山田町老連会長



被災地：山田町内（役場から撮影）



被災地：大槌町内（城山公園から撮影）

「いわて老連だより」号外第 24号 東日本大震災情報  
「がんばろう！岩手」…スローガン

平成 23 年 5 月 1 日

— 「元気袋」 — あいこうございます。

○ 兵庫県・佐用郡佐用町「高年クラブ」から「元気袋」ダンボール（大）16箱をいただいた。

5月1日（日）午前中、避難先盛岡市：被災老連・柳田光悦大槌町老連会長と事務局職員で被災地老連への配分表をつくりました。

早速、「被災市町村老連サポート班」体制の各班チーフ名で、大船渡市、陸前高田市、釜石市、大槌町、宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村、野田村老連など、9老連に配布することとした。

**メッセージ「被災者への方々へ 助かった命を亡くなられた人たちの分まで生きぬいて下さい 応援します**  
**兵庫県佐用郡佐用町「高年クラブ」**

○ 兵庫県・丹波市老人クラブ連合会春日支部から「元気袋」ダンボール（小）28箱をいただいた。

5月1日（日）午前中、避難先盛岡市：被災老連・柳田光悦大槌町老連会長と事務局職員で被災地老連への配分表をつくりました。

早速、「被災市町村老連サポート班」体制の各班チーフ名で、大船渡市、陸前高田市、釜石市、大槌町、宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村、野田村老連など、9老連に配布することとした。

**メッセージ「被災された皆様へ 兵庫県の老人クラブ会員は応援しています**  
**大規模地震により被災された方々に、謹んでお見舞い申し上げます。わたしたちは、被災地に心を寄せ、厳しい状況に立ち向かう皆様に応援します。**



兵庫県佐用町高年クラブ・丹波市老人クラブ連合会春日支部からの支援物品「元気袋」

○ 県老連では5月2日（月）三役会議を開催します。早速、支援物品は【被災市町村老連サポート班】体制により各ブロック・チーフ名で9市町村老連へ配布する予定です。

○ 被災地へ県社協職員・ボランティアなどが早朝から、ふれあいランド岩手（県社協・県老連など入居）を起点に被災地に出発しています。感謝いたしております。

## 「いわて老連だより」号外第23号 東日本大震災情報 「がんばろう！岩手」…スローガン

平成23年4月28日

○ 4月26日(火)に第4ブロック班(チーフ・村田副会長)と菅野会長・野辺地事務局次長が久慈市老連、野田村老連、普代村老連の現地調査を行った。

午前10時ごろ久慈市総合福祉センター(久慈市社会福祉協議会)到着。管内4市町村の社会福祉協議会職員が、災害で全壊した野田村老連の事務書類を整理していました。これらの書類は津波で濡れて破損等があったものでした。久慈市社協まで書類を運んで整理をしていました。(県老連・・・頭の下がる思い)

市社協事務室で坂本治雄市社協会長も入り、最初に菅野会長から地震・津波等被災された老連の会員にお見舞いを申し上げた。続いて木戸口敏男事務局長から久慈市内の被災状況と洋野町社協青澤学事務局長から各々被災状況の報告をいただいた。県内の他市町村から見ると被災は少なかった。



左から青澤洋野町事務局長、坂本久慈市社協会長  
菅野県老連会長、村田県老連副会長(久慈市会長)



野田村：(仮)社会福祉協議会事務所

○ 久慈港等の被害状況を見学しながら小袖海岸へと向かった。小袖海女センター等も津波で全壊でした。険しい山道を通って野田村に入ったら役場前から国道45号まで商店街が全滅でした。言葉も出ませんでした。役場に出向いて米田収総務課長に災害等のお見舞いを申し上げて、隣りに仮設野田社会福祉協議会事務所に出向き小谷地要治担当にあった。大平茂町老連会長宅が役場の後です。会長宅に出向いたら床上浸水で被害等の後片づけをしていた。菅野会長からお見舞い申し上げ硬い握手をしておりました。被災状況を聞きながら社協の仮事務所で「元気袋」50個及び子供用の元気袋25個を菅野会長から避難所で生活している会員に渡していただきたい旨話した。その後被災地を見て普代村へ向かった。

○ 普代村自然休養村管理センターへ1時30分ごろ到着した。下道祐一福祉活動専門員が対応してくれた。村は死者はなく被害も少ない。村を守る15mの巨大な堤防で中心部が津波から守られました。前和村村長の津波に対する堤防が攻を奏した。(地元新聞では掲載している)